

《派遣報告書》

蓮岡靖之

I 岩国航空基地視察研修並びに意見交換

1. 日時 平成30年8月28日(火) 13:00~15:00
2. 場所 海上自衛隊 岩国航空基地内 会議室
山口県岩国市三角町2丁目
3. 相手 海上自衛隊第31航空群司令 海将補 森田 義和氏
// 第71航空隊 司令 1等海佐 宮崎 研三氏

4. 目的

災害対応に関連する自衛隊の行動について確認するとともに、自治体に対する要望を調査するため。

また岡山県奈義町、津山市に存する陸上自衛隊日本原演習場は本年10月に米海兵隊単独訓練を予定している。そこで米海兵隊が管理する日米共同の基地である岩国航空基地を視察、調査することにより自衛隊と米軍の共存体制やさまざまな課題などについての考察をするため。

5. 概要

岩国航空基地は現在、米海兵隊が管理する日米共同の基地であるが、昭和13年4月に旧海軍が飛行場を建設して以来航空基地として使用されるとともに、昭和18年11月には海軍兵学校岩国分校が開設されるなど旧海軍ゆかりの基地である。

昭和20年8月、終戦とともに米海兵隊が進駐しその後米海軍、英連邦軍、国連軍等が使用し昭和27年以降在日米軍の基地として現在に至っている。

海上自衛隊は、昭和32年3月岩国教育航空派遣隊が創設され共同使用を開始して以来数回にわたる変遷を経て、現在では第31航空群、第111航空隊、岩国システム通信分遣隊、岩国警務分遣隊及び中部情報保全隊岩国情報保全派遣隊が所在している。

面積は約790万平方メートル、所在する4つの航空隊と6種類の航空機をもって海上航空の一翼を担い、我が国周辺海域における「海上交通の安全確保」に、「洋上救難」に、「訓練支援」に、そして「機雷掃海」にその真価を発揮している。

第31航空群は航空集団の隷下武体であり、昭和48年3月に岩国
群隊

航空基地に新編された。航空機は救難飛行艇 US-1A、US-2、電子線データ収集機 EP-3、画像データ収集機 OP-3C 等を保有。

この度は第 71 航空隊の US-2 の救難活動について調査した。1 機約 126 億円。現在 5 機を運用。最終的に 7 機保有する計画。日本唯一の洋上救難を主任務として活動。部外からの要請は年間 12～13 回程度あり外洋で遭難した日本漁船等の救難活動を行っている。

6. 考察

日米共同使用とは言え、事実上のアメリカ合衆国内である当該敷地は、まさに米国の街中の様相を呈しており、わが国の岩国航空基地はまさに、間借り状態のような感であった。具体には、住宅や学校、幼稚園、商業店舗に至るまで、米国の一つの街がそのまま、移築してきたかのような風景であった。翻って、日本の基地施設は総じて非常に老朽化をしていた。懸案の日米間での課題等についてはすでに 80 年以上の実績を得ているだけに関係良好とのことで、「フレンドシップデー」や、米軍人共々に地域にとけこんでいて、市民との交流も盛んにされているとのことであった。基地内での日米の連携についても、特化した課題はないとのことであった。共同訓練の調査関係は、不発であった。最後に森田海将補や宮崎隊長の意気込みや高い防衛意識は評価に値するものであった。ちなみにニュースキャスターの辛坊治郎氏を救出したのは本航空隊とのこと。

II 岡山県スポーツ振興議員連盟として、広島東洋カープ球団への 倉敷マスカットスタジアムでの試合誘致について

1. 日時 平成30年8月29日(水) 11:00~12:00
2. 場所 事務所(マツダスタジアム)
広島市南区南蟹屋 2-3-1
3. 相手 (株)広島東洋カープ 取締役営業本部 本部長 浜田 氏
試合運営課長兼営業部スポンサー営業課長 木村 勇貴 氏
4. 目的

岡山県のスポーツ行政の中で、親しく県民の皆様方にプロ野球ゲームを1試合でも多く観戦して頂き、スポーツマインドの高揚や施設の有効活用に供するため、2019年度において倉敷マスカットスタジアムにてプロ野球ゲームを1試合でも多く開催していただくため、広島東洋カープ球団に対し要望書を提出し要請するため。

5. 概要

(株)広島東洋カープに対し、岡山にプロ野球を誘致する会及び岡山県スポーツ振興議員連盟から、広島東洋カープ主催試合の開催にかかる要望書を提出した。

6. 考察

毎年の恒例の行事とは言え、今回は球団史上初となるリーグ3連覇をほぼ手中にした絶好調期の同球団に、このようなお願いをする方としても、大いに気後れのすることではあった。当然ながら観客動員数や営業成績についても好調を博しており、広島市から同施設の指定管理者を任じている同球団にとっては、1試合でも多くホーム球場で開催したいことは理解に易い。いずれにしても、興行主である山陽新聞等の判断に委ねることが多いことは致し方無い。しかしながら、諦めることなく要望活動は続けていくことに価値があると思う。

(主な球団発言内容)

- ① 毎年要望書まで頂きありがたいが、なかなかご要望に沿うことは難しい。
- ② 興行主の山陽新聞社がどう考えているかが分からない。現在はおかげさまで何もしなくてもチケットがすぐに完売される状況。1軍戦は地方で開催するとファンからも広告主からも怒られるため、現在は2軍戦で地方に出ていくという方針になっている。最近では福山市から強い要望があり、今年も開催した。
- ③ オープン戦の開催は岡山では楽天と競合する興行主との関係があり、開催は困難であると考えている。岡山で何もなければ考えられるが。

- ④ 縁日など単なる野球にとどまらずテーマパークのような球場づくりを行っている。
- ⑤ 現在、体力があるため毎年球場に何らかの手入れを行っている。最近は室内練習場を整備した。